

障がい等地域支援ブロック会議報告(平成25年5月～平成25年10月)

資料1

月	参加機関数	参加者数	担当機関名	事例の概要	検討項目	意見	課題
5	19	27人	市障害福祉課	触法で執行猶予中、福祉サービスを利用しながら地域生活を送る発達障害者の今後の支援について	就労移行、居宅介護(朝・夕各1時間)、計画相談、保健師訪問を実施。 ①不足している支援はないか。 ②今後の目標設定について	①支援が多すぎるのではないか。本人の役割、できることを増やしていく。余暇活動の検討。友人ができるきっかけ作り。 ②本人のストレスを軽減(対応事業所、人数を減らす)。体調・症状の安定をはかる。相談できる相手を増やす。心の支えを見つける。	
6	19	29	は と け あ	入浴支援で居宅介護を利用している方がヘルパー交代により、代わったヘルパーが支援すると黙り込む方への支援について	①ヘルパー支援を続ける為にはどうしたらよいか。 ②調整する際の注意点や問題点、今後の調整方法について助言が欲しい。	①現体制の同じヘルパーで続けるべきか。事業所の変更や複数の事業所、2・3人でローテーションを組んでみては。 ②本人に話をしないといけない支援か。ヘルパーが流れ作業と思って割り切る必要がある。	
7	16	25	ふ な き	要支援者のみの世帯をどうささえるか。 事例1:認知症の父親とうつ病の息子 事例2:高齢で虚弱な母親と統合失調症の	①家族に支援・介護が必要になった際、どう支援していくか。 ②介護保険へのつながりやケアマネジャーとの連携はどうしていくか。	・家族の5年、10年後の希望が分かれば支援しやすい。 ・家族も障害や制度など、どの程度理解しているか分かりにくく、身内のことを話したくない方もいる。 ・本人への支援と家族への支援が完全に一致しない事がある。全てを本人の為の支援につなげるのは難しいのでは。 ・家族同士は影響しあうことがあるので、支援者間での情報共有が必要。	家族の事については、どこまで立ち入ってよいか分からずSOSがでてからの支援になる現状があるのではないか。 ⇒支援者側が本人だけの支援でなく、家族全体をみる必要がある。必要時、介護保険へのつながりやケアマネジャーとの連携が大切。

月	参加機関数	参加者数	担当機関名	事例の概要	検討項目	意見	課題
8	18	22	ぴあ南風	高齢になり、介護保険への調整が必要になる聴覚障害者の方との今後の調整について	認知症状が見られる聴覚障害者に介護保険への導入を検討している。今後、支援が途切れないためには、どのように調整すれば良いだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障害にこだわりすぎず、認知症対応の事業所を探す方が良いのではないか。 ・聴覚障害者の方は他者との会話に入れず孤立しやすい、悪口を言われているのではなどの疑心感を持たれたりする方がいる。特性を知って関わる必要があるのではないか。 	聴覚障害者に対応できる介護保険対応の事業所がほとんどない現状があり、調整が難しい。 ⇒手話通訳者の活用が必要なのでは。介護保険の支援者だけでなく、手話ができる方が少しでも増えていくと良い。
9	19	23	セルプ岡の辻	精神障害者(広汎性発達障害)の方の就労支援について	<ul style="list-style-type: none"> ①無収入のため、仕事をしたい焦り、周囲からのプレッシャーもあり、精神状態が安定しない方を、就労に結び付けるにはどのような支援ができるだろうか。 ②精神状態が悪く回復されずに離職した方の今後の行き先はどこが良いだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・精神状態が悪いままの状態では、一般就労は難しいのではないか。 ・今の状況が一般就労できる状況なのか主治医に確認する必要があるのでは。 ・今は一般就労は考えず、障害サービスでの就労系を利用し、本人に合っている仕事を探すことが必要で 	
10	15	26	片倉病院	地域移行事例：発達障害と統合失調症がある方で、家族への暴力などで入退院を繰り返してきた方への退院に向けた調整について	<ul style="list-style-type: none"> ①衝動性があり、対人関係の構築が難しい方が、施設へいけるよう入院中から病院側が出来ることは。 ②家族が本人へ継続して関わってもらうにはどうしたらよいか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・院内プログラムの検討、入院中に対人関係のストレスを与え、課題や対処法を明確にし、入所に備える。衝動性が出ても病院なら薬のコントロールができるのでは。 ・家族は少し距離を置いておきながら、最低限の関わりは維持してもらう方が良いのではないか。 ・施設へ移行できても、対人関係の悪さは続く可能性大。再入院の可能性も視野に入れながら、病院のバックアップのもとで支援を行う。 	